

鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者委員会

日時	令和5年11月2日（木）10時00分から12時00分
場所	市役所7階 大会議室
出席者	委員16人 新屋 浩一、別府込 初男、畠中 和文、落司 ひとみ、山中 将史、 金久 博昭、崎野 剛、志賀 玲子、上高原 貴子、成島 高理、 黒岩 隆一、和田 滋、瀬筒 美奈子、宮下 昭廣、隈崎 和代、 小林 千鶴

■主な質疑等

発言者	内容
委員	<p><b>【第2期鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況等について】</b></p> <p>○ 人口動態に関して、鹿屋市の地区内の状況を把握することが大事だと思うが、大まかに地区を分けて比較するなど、分析の手法等を検討されているか。</p>
事務局	<p>⇒ 地区別の人口増減は整理している。今後は更に地域間の差が広がると思われることから、いろいろなところで地域課題を発見しながら、きめ細やかな対策に注力したい。</p>
委員	<p>○ 15歳から64歳までの生産年齢人口の推移が分かれば教えてほしい。</p>
事務局	<p>⇒ 鹿屋市人口ビジョンにおける社人研の推計では、2020年が5万5,741人、2030年の見込みが4万8,470人、2060年は3万3,760人と減少傾向にある。</p>
委員	<p>○ 里山林等整備モデル事業に関して、どのような事業を実施されているのか教えてほしい。</p>
事務局	<p>⇒ 鳥獣害対策においては、緩衝帯の設置や電気柵の設置や地域にて鳥獣を寄せ付けないために残渣を残さないなどの取組を行っており、いろいろな取組を一体的に実施している。</p>
委員	<p>○ 企業誘致サポート推進事業に関して、シャトレーゼのような全国規模の企業の出店において、どのような効果があると見込んでいるか。</p>
事務局	<p>⇒ 雇用に関しては、約40名程度が確保されると聞いている。また、シャトレーゼの鹿屋工場では、焼き菓子の製造を行うことから、地元原料の使用はもとより、シャトレーゼの会社自体が全国でホテルやゴルフ場を展開していることから肉や魚などの販路としても期待している。原料供給のほか、機械設備投資や物流などに関しても、地域への経済効果が期待できると考えている。</p>

<p>委員 事務局</p>	<p>○ 今後の誘致先などがあれば教えてほしい。 ⇒ 企業誘致において、空き地や空き物件に関する一定の相談があるが、要望に応じた場所を紹介できない状態であり、きちんと対応できるように工業団地の整備に取り組んでいる。不動産の方々と連携し、空き地や空き物件の情報収集を行い、相談に対応できるように努めている。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>○ 地元就職支援事業に関して、インターンシップを企業が受け入れるためのプログラム作成の費用を補助しているのか。また、補助対象となるのは、インターンシップ5日以上のものか。なお、企業がどのようなプログラムを作成しているのか教えてほしい。 ⇒ 企業でインターンシップに取り組む際の一番の課題は、何をさせればいいのか分からないというものであったことから、インターンシッププログラム作成の相談費用を支援している。また、本事業は、全てのインターンシッププログラム作成経費に対応しているが、現時点で申請はないことから、インターンシップに取り組んでいる事業者や取り組みたい事業者へPRしていく必要がある。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>○ ふるさと納税の金額がすごく増えている要因等があれば教えてほしい。 ⇒ 1点目として、鹿屋市のシティセールスとして、サンシャイン池崎氏を活用した、「KANOPYeah!CITY」プロジェクトを実施した。アンケートにおいて、サンシャイン池崎氏をきっかけに寄付したとの回答が多く、ふるさと納税をした方の合計金額が7,000万円という結果も出ている。 2点目として、コロナ禍での巣ごもり需要をターゲットとし、インターネットのサイト上で鹿屋市のふるさと納税の広告が一番上に掲載されるようにした。 3点目として、商品として一番購入される金額層の商品構成を厚くし、他市の商品と比べて、より一層魅力的なものとなるようにした。比較されたときに他に負けないような商品構成を検討したことが寄付額増加の大きな要因ではないかと考える。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>○ 男女共同参画推進事業に関して、男性職員の育児休業の取得実績が伸びた要因等があったら教えてほしい。 ⇒ 人権教育や男女共同参画の研修に力を入れているが、明確に決め手を感じていない。今の若い世代は、比較的初めからパートナーが働いている状況があり、ともに支えあうことがある程度意識の中で定着しているのではないかと。市役所内部においては、デジタルを活用した業務や事務の省力化の推進などを今後も集中的に進めていくことで、余裕ができ、育児休業の取得も増えていくのではないかと考えている。</p>

<p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>○ 出生率を上げるために、育児休業を取得しやすい環境が必要であることから、鹿屋市が先導して取り組むべきではないか。鹿屋市が推進することで、民間企業に波及すると思う。</p> <p>⇒ 市内の企業が官公庁の取組を参考に福利厚生を含め自社に反映されているという意識はしっかりと持っている。男女どちらも育児休業を取得しやすい環境づくりと働き方改革をしっかりと推進していく。</p>
<p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>○ 地域づくり推進事業に関して、強化した支援内容とイベントへの支援があるのか教えてほしい。</p> <p>⇒ 新たな取組では、高齢者宅の粗大ごみの搬出支援や空き家・空き地の維持管理、有償ボランティア、子ども食堂の開設など、地域課題を解決する事業への支援を強化している。</p> <p>また、町内会活動が主になるが、従来からある親睦を深めるための事業支援や複数の町内会で取り組む事業、民間団体が地域づくりを進める事業など、先日パーク高須中で開催された大道芸フェスへの支援等も行っている。</p>
<p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>○ 今年度はカレッジスポーツデイの開催やミッションウォーキングを大学敷地内で初めて実施した。国体の影響もあると思うが、昨年に比べてスポーツ観戦の熱が高まっていることから、これを契機により一層盛り上げていきたい。</p> <p>⇒ 今年のかごしま国体で成年女子バレーボールに鹿屋体育大学がOBも含めて参加し、大変活躍された。また、かごしま大会では鹿屋にて精神障害者の部のバレーボールがあり、鹿屋体育大学のバレーボール部の部員20～30人が鹿児島県チームを含め、他県から来たチームにも一生懸命応援されており、非常に感動的だった。全国から来た方々にも本当に素晴らしいとお礼を言われた。鹿屋体育大学の生徒が学内に留まらず、スポーツを通じて地域を盛り上げていただいたことに大変感謝申し上げますとともに、スポーツによるまちづくりを推進している鹿屋市として、非常に心強く思っている。</p>
<p>委員</p> <p>事務局</p>	<p><b>【シビックプライド(まちへの誇りや愛着)の醸成に向けた取組について】</b></p> <p>○ かのや風土記等を活用した取組を進められているが、鹿屋の鹿屋の歴史は、あまり語られていないことから、大隅史談会のような団体等と連携・協力して、語り部を増やし、歴史を学べる機会を創出してほしい。</p> <p>⇒ かのや風土記や人口減少対策ビジョン、農業・農村戦略ビジョンなどの計画等をテキストにした、かのや検定を行いたいと考えている。鹿屋中央公民館の機能をリナシティかのやに移すことにあわせて、どのようなことを学びたいかアンケートを行っている。アンケートにて、鹿屋の</p>

	<p>歴史を知りたいという声があった場合は、米永新人氏や東川隆太郎氏を講師に招くなど、鹿屋の歴史を知る機会を創出していきたいと思う。アンケート結果を見ると、NISA について学びたいなど、最近ニーズも変化しているため、市としてもいろいろ勉強しながら取り組んでいきたい。市民講座やかのや検定は、シビックプライド醸成の一つの取組であることから、期待していただければありがたい。</p>
委員	<p>○ 鹿児島全体がスポーツビジネスやカルチャーをお金や文化に転化することができていないことから、鹿屋市のミュージカルや鹿屋体育大学の存在は、他にないオンリーワンのブランディングに繋がると思う。</p> <p>地方でよくある話だが、地域のいいところを聞くと、何もないと回答されることは、まさにシビックプライドがないことではないかと思う。人において自己肯定感、また会社においては自社肯定感が下がりがちであり、肯定感を向上させていくことがとても重要だと考えるため、シビックプライドの取組は非常に大事である。いいところを見つけ合い、言葉にすることで、地域のビジョンや魅力的な方向性が見えやすいと思うため、ぜひ、いろいろな取組を行ってほしい。</p> <p>また、リナシティの新たな活用やコンパクトシティに取り組んでいるスピード感など、鹿屋がいろいろ頑張っており、上り調子の街であることを、サンシャイン池崎氏に発信してほしいと思う。取組内容の情報発信だけでなく、方向性や伸び盛りの街であるような、ブランディングができればいいのではないか。定期的に鹿屋のいいところや特産品、伸び盛りである自分のふるさと紹介など、X などの SNS を活用した情報発信をすることで、更にふるさと納税の増額などに期待できるのではないか。問題としては、重たく直視しなければならないものであるが、ソフト部分のブランディングにすごくポテンシャルを感じた。</p>
委員	<p>○ JC(鹿屋青年会議所)主催の「おおすみ全体会議」にて、パネリストとして登壇する機会があり、その会議の中で地域への愛着に関して、参加者にアンケートを行う場面があった。鹿屋に対する愛着がどれぐらいあるか質問されたが、100%だと回答した。また、鹿屋に居住し、いろいろな取組をさせていただき、大好きだからこそ鹿屋の街をよくしたい、皆と一緒に何かしていききたいという気持ちでいると回答した。会議の参加者は YouTube 配信を含め、200 名近くいて、会場での参加者とオンラインでの参加者に愛着に関するアンケートを行うと、愛着度は大体 80%程度であった。</p> <p>街の魅力や愛着の要点は、人だと言いつけているが、場所づくり等に関しても、人が作り出すものが実になり、伝わっていくことから、鹿屋を深く知るといふことに関しても、人から伝わっていくものだと感じている。住んでいる方々のいいところをたくさん知っており、鹿屋の街はすごくワ</p>

	<p>クワクする場所だと思っているが、魅力やワクワク感を発信しきれておらず、それぞれの団体等が個々に街を好きなこと、街の魅力を発信しようしているのが現状であることから、一つのことに対して、皆で力を合わせて取り組むことができたらい。</p> <p>また、鹿屋を好きになるには、自分自身が学生や子どもから目指される大人になることが必要だと考えている。学生や子どもから、鹿屋のこの人になりたいと思われることや目指される大人になることが、愛着や誇りとなり、シビックプライドの醸成に繋がっていくと考える。</p> <p>委員 ○ 民間ができる街の魅力等の情報発信として、鹿児島銀行本店ビルにて、大隅グルメ・観光フェアを開催している。明日はおはら祭が開催されるため、来場者が一番期待できる日に開催日を調整した。大隅地域から10数社が出展しているため、時間があれば、ぜひ来店していただきたい。鹿屋市内の業者は、鹿屋市漁協のみなど食堂、小松食堂、三和物産、ふくどめ小牧場等が出店している。</p> <p>委員 ○ 子どもたちが体験を通して鹿屋の良さを知ってもらうことが大事である。子ども達は18歳になると市外に出てしまうが、市外に出て初めて鹿屋の良さが分かると思う。書物の教育も大事だが、たくさん体験をさせたい。子どもを保育園に預けていた時、子どもたちがピーマンをたくさんぶら下げて帰ってきたことがあったが、収穫したピーマンをすごく嬉しそうに持って帰ってきた。美味しい食材やすばらしい自然、歴史、芸術など、身近に触れる機会があればいいと思う。</p> <p>事務局 ⇒ 子どもの頃から、しっかりとふるさとに対する愛着を醸成することは、非常に大事である。地域で子どもの顔が見えず、地域で子どもを育てるという意識が昔からすると薄れてきている。</p> <p>鹿屋市では、6～8年前から小学生の低学年を対象に生涯学習センターや学校、公民館等にて1週間に1回、寺子屋事業を実施しており、自主学習として勉強が習慣化するような取組を行っている。また、寺子屋事業では、月に1度、地域の文化や歴史を知る学習、お年寄りから昔の遊びを習うなどの体験をする機会を設けており、ふるさとで育ててもらったと感じてもらい、地域の愛着度を高めることに取り組んでいる。</p> <p>また、最近の子ども達は、世界に飛び出さなければならないことから、英語教育の一環として、泊りもしくは日帰りのイングリッシュキャンプを開催している。イングリッシュキャンプでは、子どもたちに外国の方が引率し、ネイティブの英語に触れることや英語で話をするなどの機会を作っている。子ども達は、五感で体験や物事を知ることが大事であることから、今後も知恵を出しながら取り組んでいきたい。</p>
--	---